

奄美市長 安田壮平殿

観光に関する政策提言

令和7年3月 最終提言
（令和6年9月 中間提言）

奄美市議会
政策立案推進会議

はじめに

世界的パンデミックとなった新型コロナウイルス感染症により落ち込んでいた奄美市の経済状況は、感染症の5類移行及び世界自然遺産登録によるインバウンドを含めた観光客の増加により、観光関連産業を中心に回復の兆しが見える。観光面の発展は、観光業界にとどまらず他の業界、ひいては市民一人一人の生活にも効果を及ぼすものであり、奄美群島振興開発特別措置法の延長においても、重点的に要望されている分野である。

一方、LCCの減便や運休による観光客数の不安定化に加え、新たな観光スポットの創出や二次交通網を含めた受入環境の整備遅れ、効果的な情報発信の不足など、様々な課題がみられる。

このような状況を踏まえ、奄美市議会政策立案推進会議では、本市の経済の基盤である「観光面における諸課題の解決を図ること」が、本市のさらなる発展に寄与するとともに、奄美がこれまで大切にしてきた「結いの心」を最大限に生かすことができるテーマであると考え、ここに観光に関する政策提言を立案した。

市長におかれては、この提言の趣旨をお汲み取りいただき、積極的に取り組まれるよう市議会として強く提言する。

目次

I. 最終提言骨子＜3つの柱＞

II. 提言の背景

1. 観光産業に係る本市の現状

2. 課題

III. 調査研究の経過

IV. 今後の対応について

I. 最終提言骨子<3つの柱>

提言1. <産官民>連携体制の構築

提言2. 島内の受入環境の整備

提言3. 情報発信の役割の明確化

Ⅰ．最終提言骨子＜3つの柱＞

提言1．＜産官民＞連携体制の構築

商品作り・情報発信を一体感を持って行う事を目的に、＜産官民＞各々で動いている『観光』に関連した取組を今年度中に整理し、来年度から奄美市として【軸となる体制】を再構築していく事

そのとりまとめを＜行政主導＞で進めていく事を提言

会議体の議論した結論の反映先を具体的に示す事を提言

（1）軸となる体制の再構築

ア．現存の「（一社）あまみ大島観光物産連盟」と連携していく事

イ．業種内連携を目的に自由に意見交換できる場とする事

ウ．既存の観光に関わる事業の整理含めて進めていく事

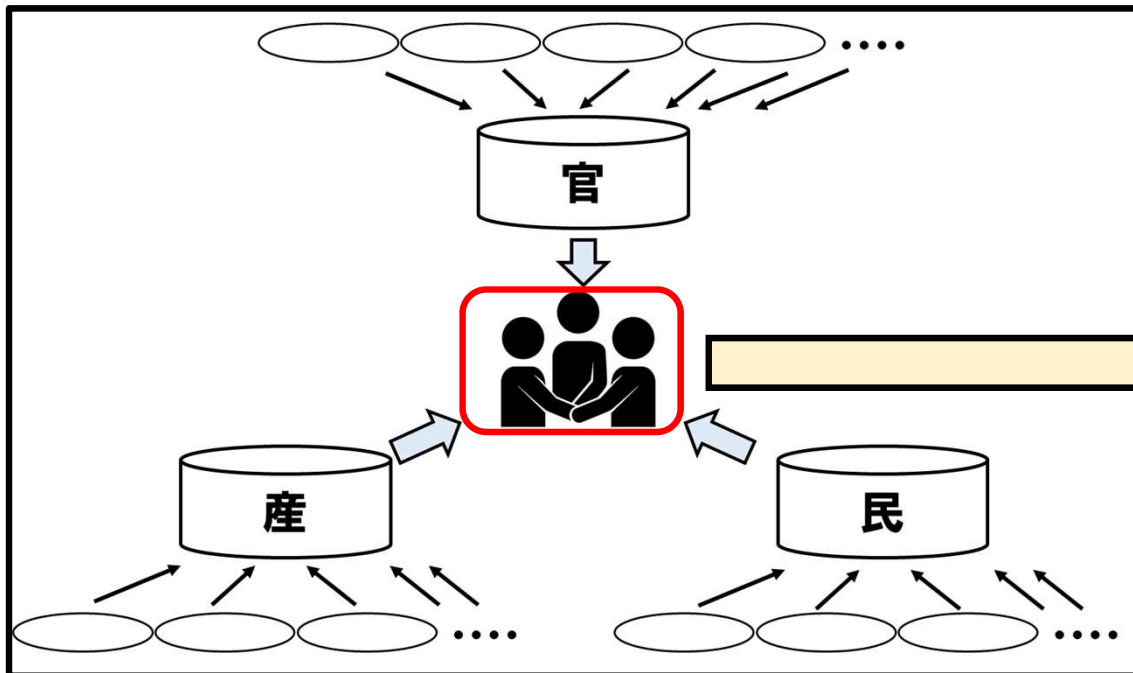
Ⅰ. 最終提言骨子<3つの柱>

(2)軸となる体制の再構築(案)

ア. 軸となる体制の役割と位置付けを早期再構築

<産官民調整会議(仮称)体制(案)>

- ・(産)(一社)あまみ大島観光物産連盟 + 各関連事業所
- ・(官)紬観光課
- ・(民)奄美市議会議員



イ. 予算・施策の
見直し提案を実施
(時期: 予算立案時期)

↓
10月(仮)

Ⅰ. 最終提言骨子＜3つの柱＞

提言2. 島内の受入環境の整備

市民・観光客が安全・安心に行動できる環境を整備する事を目的に、
【ソフト・ハード面の環境整備】へ取り組む事

(1)安全確保への取組

ア. 街灯・防犯カメラの設置, 通信手段の確保, 危険箇所の把握

①観光客の移動ルート検証, 看板の「分かりやすさ」の確認と改修

(2)ユニバーサルツーリズム(インバウンド/バリアフリー)対応の加速

ア. 小規模事業者へのサポート体制を具体化

(3)観光案内体制の充実

ア. 受入最先端となる「認定ガイド」のレベルアップ施策のサポート

(4)空港の送迎環境整備

ア. 奄美を感じる事ができる環境構築, 飲食整備など

⇒最初の一步／最後の一步となる場所として, より魅力ある場所へ

＜現状確認＞を実施し優先度付け含めた,
＜対応の進捗状況の見える化＞を行う事を提言

Ⅰ. 最終提言骨子＜3つの柱＞

提言3. 情報発信の役割の明確化

「奄美を知っている人」「奄美を知らない人」、各々への発信を区別し、
情報提供できる【産官民】各々の役割を明確にしていく事を提言

【「奄美を知っている人」「奄美を知らない人」の2つを柱として提言する】

(1) 「奄美を知っている人」への発信

ア. (一社)あまみ大島観光物産連盟へ最新かつ正しい情報が集約できる
体制が継続的に構築できるリソース(ヒト, モノ, カネ)を充てる

(2) 「奄美を知らない人」への発信

ア. 「島外へ出ていく子どもたち」を情報発信源と考え、奄美で過ごす学生
時代に全員が、奄美の魅力を体験・経験できる仕組みをつくる事

イ. 奄美の島内企業と外部(国内・海外)とのマッチング機会をつくる事
(交流・関係人口を指標として回数と実績をフォローしていく事)

II. 提言の背景

1. 観光産業に係る本市の現状

(1) 情報発信

- ア. 雨天時の魅力的な観光スポットが少なく周知できていない
- イ. 新たな観光ルートや観光スポットを周知できていない
- ウ. 個々の努力での情報発信になり、本来の魅力を伝えきる事ができていない
- エ. インバウンドの受入環境を発信できる体制が整理できていない

(2) 商品作り

- ア. 存在する多くの観光資源を活用できていない

(3) 受入環境

- ア. 市民・観光客が共に安全だと感じる事ができる環境が整備されていない
- イ. ユニバーサルツーリズム(インバウンド／バリアフリー)に対応できる環境が整備されていない
- ウ. 受入口である空港の環境が十分ではない

(4) 航路・航空路線・二次交通

- ア. 集客が航空便の増減に敏感な為、安定的な航空路線の確保ができていない
- イ. 島内での多様な移動手段に対する対応ができていない

II. 提言の背景

2. 課題

- (1) 奄美の魅力を十分に発信する事ができていない
- (2) 受入環境の整備ができていない
- (3) 集客の安定化ができていない
- (4) 島内での移動手段の選択肢が少ない

これらの課題を、以下の2つに分類

①奄美市単独で対応可能なもの

⇒「来島してもらえるために」対応する課題

②市内外の複数団体と調整・連携が必要なもの

⇒「来島・周遊手段確保のために」対応する課題

本提言では、「来島してもらえるために」を軸とする

Ⅲ. 調査研究の経過

1. 令和6年4月15日 【第1回】 政策立案について、テーマの募集
2. 令和6年5月14日 【第2回】 過去の政策提言取組状況ヒアリング、テーマの選定
3. 令和6年6月7日 【協議会】 課題・やりたい事の見える化
4. 令和6年6月25日 【意見交換会】 (一社)あまみ大島観光物産連盟
5. 令和6年7月10日 【意見交換会】 観光事業者等(12団体)
6. 令和6年8月8日 【第3回】 提言案・提言の方向性について
7. 令和6年9月2日 【第4回】 当局ヒアリング(中間提言書素案について)
8. 令和6年9月20日 【第5回】 中間提言書最終確認
9. 令和6年9月24日 【全員協議会】 報告(中間提言書について)
10. 令和6年11月22日 【第6回】 最終提言へ向けての進め方
11. 令和6年12月13日 【第7回】 学び・スポーツ推進課「奄美スポーツアイランド協会事務局」ヒアリング
12. 令和6年12月18日 【事業所ヒアリング①】 「株式会社ばしゃ山」「奄美市WorkStyleLab」
13. 令和6年12月19日 【事業所ヒアリング②】 「奄美山羊島ホテル」
14. 令和6年12月20日 【事業所ヒアリング③】 「ホテルビッグマリン奄美」
15. 令和6年12月23日 【事業所ヒアリング④】 「(一社)あまみ大島観光物産連盟」
16. 令和7年1月7日 【第8回】 最終提言案の方向性について
17. 令和7年1月17日 【事業所ヒアリング⑤】 「Living AMAMI」
18. 令和7年1月28日 【事業所ヒアリング⑥】 「奄美大島エコツアーガイド連絡協議会」
19. 令和7年1月30日 【第9回】 ヒアリング内容の整理・最終提言案の内容確認
20. 令和7年2月19日 【第10回】 最終提言案の内容確認
21. 令和7年3月11日 【第11回】 最終提言書最終確認
22. 令和7年3月27日 【全員協議会】 報告(最終提言書について)

IV. 今後の対応について

1. 産官民調整会議（仮称）について

（1）調整会議の設置について

- ア. 設立準備委員会の設置（奄美市議会議員も参加）
- イ. 準備委員会にて構成員等の検討・調整
- ウ. 調整会議の設置の期限：令和7年5月末

（2）調整会議の令和7年度の実施内容について

- ア. 令和7年度要望項目の進捗確認
- イ. 令和7年度要望項目の見直しと再構築
- ウ. 令和8年度への要望案件の整理と要望
- エ. 次期「奄美大島中長期観光戦略」作成に向けて、より具体的な目標を提案

<参考> 要望内容と具体的実施項目 ①

大分類		中分類	小分類	具体的な実施項目
A	体制作り ・産官民一体 ・意見交換の場	業種内連携	観光協会・観光連盟	「産官民調整会議（仮称）」の設置
			バス/タクシー/レンタカー	
			観光代理店	
			物産	
			ガイド	
			小規模事業者	
B	商品作り	資源の活用	住用/笠利/名瀬の自然資源	「産官民調整会議（仮称）」での議論項目 ⇒目標件数を設定 ・令和8年度予算確保へ向けて具体的商品を提案 ・奄美大島中長期観光戦略へ提案
			住用/笠利/名瀬の文化資源	
		ターゲット層を絞ったイベント作り	スポーツアイランド	
			満喫ツアー	
			ユニバーサルツーリズム	
			インバウンド対応	
			アドベンチャーツーリズム	
			固有種資源散策ツアー	
		ワーケーション ⇒デジタルノマド*1 <団体から個への変化>		・奄美の島内企業と外部（国内・海外）とのマッチング機会をつくる事 ⇒交流・関係人口を指標として回数と実績をフォローしていく事
		施設や場所の活用	観光バス活用	「産官民調整会議（仮称）」での議論項目 ⇒目標件数を設定 ・令和8年度予算確保へ向けて具体的商品を提案 ・奄美大島中長期観光戦略へ提案
			エリア別整理	
			道の駅活用	

*1:デジタルノマド:インターネットとデジタル技術を活用して場所に縛られずに働くライフスタイル

<参考> 要望内容と具体的実施項目 ②

大分類		中分類	小分類	具体的な実施項目
C	情報発信	情報発信の整理	ターゲットの明確化	・(一社) あまみ観光物産連盟主導の「正しい／最新」の情報発信体制へのリソース(ヒト・モノ・カネ) 充当 ・「島外へ出ていく子供たち」を【情報発信源】と考え、小中高時代に全員が、奄美の魅力を体験・経験できる仕組みをつくる事
			発信内容の整理	
			発信者の整理	
D	受入環境整備	安全安心な環境整備	街灯	・街灯整備
			防犯カメラ	・防犯カメラの設置
			バス停の日よけ	・現状確認から対応案を検討
			休憩場所	
			受入窓口	・空港の送迎環境整備 (奄美を感じる事ができる環境構築・飲食整備等)
			看板等の見直し	・看板等の整備 (分かりやすさと安全確認含めた改修)
			通信環境の整備	・通信環境の確認と確保手段の検討
			エコツアーガイド	・レベル低下抑制の為に勉強会 ・新たな客層へ対応できるスキルアップ (例) 1ランク上の<奄美ガイド> 設定
			ユニバーサルデザイン	・小規模事業者への受入環境整備 (バリアフリー／インバウンド／キャッシュレス) 対応のサポート
		インバウンド対応	イベント作り	
			ガイド/通訳	
			パンフレット/案内看板	
			メニュー	
		キャッシュレス対応		

<参考> 要望内容と具体的実施項目 ③

大分類		中分類	小分類	具体的な実施項目
E	財源確保	環境文化協力金		「産官民調整会議（仮称）」での議論項目 ・令和8年度予算確保へ向けて具体的商品提案 ・奄美大島中長期観光戦略へ提案
		宿泊税		
		その他		
F	人材確保	採用促進		「産官民調整会議（仮称）」での議論項目 ・奄美大島中長期観光戦略へ提案
		育成促進		
		移住促進		
		IT技術活用		
G	航路・航空路線	旅客の安定的な供給		
		受入側の整理		
		沖縄との連携		
H	二次交通手段	ライドシェア		
		バス/タクシー/レンタカー		
		島外事業者との連携		
I	その他	県内需要の確保		
		物産の拡充		

奄美市議会政策立案推進会議 委員名簿

氏 名	会 派 名
朝木 一仁	チャレンジ奄美
帯屋 誠二	無 所 属
○ 瀧 真一郎	無 所 属
弓削 洋平	チャレンジ奄美
大庭 梨香	公 明 党
叶 幸治	公 明 党
◎ 永田 清裕	自 民 党 新 政 会
崎田 信正	日 本 共 産 党
前田 要	奄 美 笠 誠 会
竹山 耕平	自 民 党 新 政 会

◎座長 ○副座長